

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念、グループホーム新井の理念を原点として職員一同思いを大切にしている。月1回の職員会議にて読み上げ定期的に振り返りを行っている。	法人全体の理念をもとに事業所独自の理念が掲げられており、理念の実践ができるよう、年度のホーム目標や個人目標を設定したり、毎月の職員会議の際に理念の確認をしています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の方とは、顔なじみの関係ができていますが、今年と新型コロナウイルスの流行に伴い互いに夏祭りも中止となり、防災訓練も外部は入らず法人だけでと変更になっている。あいさつ運動には参加し、関わりを持てるよう交流に努めている。	事業所広報を地域に回覧したり、管理者はあいさつ運動にも参加しているほか、今年度は新型コロナウイルスの影響で自粛していますが、例年ではさいの神や夏祭りなどの地域の行事にもご利用者と一緒に参加するなど、地域とのふれあいが心がけられています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年4回たよりを発行してグループホームを理解して頂けるように発信している。今はコロナ禍ということもあり、入居者と直接関わりを持っていないが落ち着いたらまた以前のように地域の行事に参加し、ふれあいの場やなじみの関係作りに努めていきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業計画、現況報告、外部評価の取り組みなど地域の皆様や行政、家族代表へ報告し意見を頂いている。頂いた意見は、取り入れ改善に努めている。近隣の新型コロナ感染の状況に応じて、書面開催に変更し対応している。	今年度は新型コロナウイルスの影響で書面送付での開催もありますが、運営推進会議は2ヶ月に1回開催しており、区長、ご家族代表、市の担当者、民生委員等から出席してもらっています。参加者へ事業所の状況報告を行い、会議で頂いた意見はしっかり受け止め向上するように努力しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に出席して頂いています。日頃より相互に協力体制として電話での相談、窓口にて相談している。コロナ禍で延期されていたケアフォーラム等も少しづつ再開してきている様子もある為、できる限り参加できるように努めている。	市の担当者には運営推進会議にも参加していただき、アドバイスを頂いているほか、不明な点について連絡を取り連携が図られています。また、市が主催する地域ケアフォーラムにも参加して情報を共有するなど、連携を深めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員一同身体拘束ゼロに努めている。鍵をかけた対応をしている。グレーゾーンについても話し合い、確認している。転倒防止の為、センサーマットや人感チャイム使用している方については家族様より承諾を頂いている。	事業所にて身体拘束についての研修を行い周知徹底をしているほか、身体的拘束適正化検討委員会にて定期的に検討の機会を設けるなど、身体拘束をしないケアを実践しています。	調査時点で身体的拘束適正化検討委員会の議事録の日付に誤りがありましたので、今後ミスの無いように改善されることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的拘束適正化検討委員会を3ヶ月に1回6月、9月、12月、3月概ね年4回の開催を行い研修も年2回実施するように努めている。	事業所にてスピーチロック等の研修を行い周知徹底をしているほか、職員の言葉遣いについても気が付いたら指導する等、虐待の防止に努めています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前、成年後見制度を使用されている利用者もいて具体的に係る機会によりその都度職員に周知し理解に努めている。情報提供として行政と連携しながら相談している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	今年度の改定時はコロナ禍でもあった為、郵送にてお伺いを立て文章でお知らせし、その後は電話対応や来所された方には説明して納得して頂き再契約を行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様面会時、話してできる場を定期的に設けて意見や不満点等聞き又直接言いにくいこともあるので、意見箱の説明をして入れて頂けるように説明している。	運営推進会議の場だけでなく、面会時や電話連絡の際などに気付いたことや要望は無いか確認しています。また、玄関に意見箱を置くなど、ご家族からの意見が出易くされています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回の人事考課表作成後個人面談を行ったり、随時、職員の意見や思いを聞いて反映させている。職員会議では、検討事項を話しあっている。	管理者は職員に人事異動の希望を確認したり、個人面談も行き、個人の要望や悩みを聞いています。また、日常の業務の中で職員から改善提案があれば、毎月の職員会議の場で職員同士で検討が行われ、改善されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	業務によって偏りが出ないように業務の改善や休憩時間の取り方など日々改善しながら行っている。働き方改革にて年休取得、リフレッシュ休暇取得にてストレス軽減できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部、外部研修を計画的に取り入れ参加に努めている。法人本部事務局教育研修部で、スキルアップの為に勉強会、資格取得の講座も開催している。入職後、新人研修を法人合同で行っている。コロナ禍となり、外部研修が思うように参加できない為、eラーニングを導入し、研修も行って行く予定。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	行政と共に地域の同業者と交流する機会を持つように参加している。同法人内のグループホーム間で、職種間での相互の意見交換、サービスの質の向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接では本人様にお会いし、思いを聞き、状態把握に努めている。また、居宅ケアマネージャーやサービス事業者とも連絡を取り、サービス利用時の様子を伺ったり、家族様からも本人様の普段の様子を伺い、在宅での生活に近づけるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接では家族様が困っている事などにしっかりと耳を傾け、傾聴・共感している。コロナ禍になってからは入居前の見学が難しくなっているが、不安なく入居して頂けるように電話でもこまめに話し合いの場を持っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様の生活の様子、行動を確認したり、本人様・家族様の意向と思いを伺い、見極め対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様ができる事を継続できるようにお手伝い頂いたり、一人ひとりに合わせた役割を持って生活して頂いている。入居者と職員の関係作りでは会話を大切にし、畑の事や食事作りなど皆様からたくさんのお話を学び、教わっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診や外出の支援では家族様の協力を頂き、難しい時はホームで対応し、共に支えて行くよう支援している。コロナ禍で面会禁止になった時もガラス越し面会など会える工夫を行い、制限の中でも会えるよう配慮を行った。今も制限の中での面会ではあるが少しでもゆとり話せるように対応している。年2回の近況報告をしている。遠方であり来られない家族様にも生活の様子を年2回の近況報告以外でも必要時には近況を報告している。	ホームでの活動の様子をまとめた事業所広報を年4回送付しているほか、ご利用者毎に近況報告を年2回作成しお送りしています。また、受診・外出の支援もご家族の協力をいただくなど、一緒に支えあうことができるよう関係づくりに努めています。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方の訪問を継続できるように努めている。馴染みの方の訪問を継続できるように問い合わせがあった時には制限はあるが会うことはできる事を説明している。外出時の際は入居者の方の馴染みの場所を経路に入れたり計画している。	ご家族に面会に来て頂いたり、今年度は新型コロナウイルスの影響で制限していますが、例年であれば定期的にご自宅に出かける方もいるなど、今までの関係継続支援に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係は日々の様子により見極め、見守りを行い、何かある時は職員が間に入り孤立しないよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も困り事、些細な事でも相談して頂ける様、努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活の中での困り事やプラン変更時に本人様の意向を確認している。困難な場合は本人様の生活の様子から職員が検討し、意向の把握に努めている。	日々のケアの中での表情や会話の中から思いの把握が行われており、その情報は生活記録にて記録され、ケアプランの検討に活かされています。サービス担当者会議にはご本人・ご家族にも参加していただき、要望を確認しています。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時前の訪問調査でこれまでの生活環境やサービスの経過の把握に努め、入居が決まった際には「私の生活シート」や「私の暮らしシート」を家族様に記入して頂き、把握に努めている。	ご本人やご家族からの聞き取りにてこれまでの暮らしの把握が行われ、ご本人の生活史や暮らし方を確認しています。また、日々の生活で得られた情報についても定期的に情報の更新も行っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活記録や体調チェック、日々の生活の中での関りで心身状態やできる力を把握し、変化に気づけるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のモニタリングを行い、ケアプランの実施状況を評価するとともに6か月の見直し時には家族様にもケアプランについて状況報告を行い、意向も確認している。1年に1回は担当者会議を実施し、本人様の状態に合わせ担当とも話し合い、介護計画を作成している。	居室担当者が毎月モニタリングを介護計画の評価を行っています。また、6ヶ月に1度はサービス担当者会議を行い、ご利用者、ご家族に意向を確認し、介護計画の検討を行っています。	調査時点で介護計画書の要介護度のチェックミスや、介護計画書やサービス担当者会議録の日付に誤りがある方もいましたので、今後ミスの起きないように改善されることを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアプランの実施状況については個々の生活記録に記入。特記事項は業務日誌にも記入し、共有に努めている。毎月のカンファレンスでは日々の様子を話し合い、情報共有し、対応を検討し、介護計画の見直しにも生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診や買い物など家族様の状況により職員が付き添いを行っている。また各種手続きなども家族様に代わり、代行している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	夏祭りの行事に関してや地域との交流、ボランティアの受け入れについてはコロナ禍となつてからは、中止している。コロナ禍でも状況をみながら理髪の利用は継続しており、可能なふれあいを大切に、生活支援に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様、家族様が信頼できるかかりつけ医を継続して頂き、またかかりつけ医が閉院となった時には次の病院への相談に乗り、適切な医療を受けられる様努め、主治医との関係作りにも努めた。	かかりつけ医はご本人の希望するかかりつけ医となっており、ホームに往診も来て頂いています。受診時は原則ご家族が付き添いますが、必要に応じ職員が同行し、医師との状況の確認が行われているほか、ご利用者の情報をまとめた情報提供表をご家族に渡すなどの情報提供も行って頂いています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の健康チェックだけでなく、特変時の指示、排便コントロールについて相談に乗って頂いたり対応して頂き、連携を取り、主治医へ繋ぐ体制を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には担当看護師や地域連携室との情報交換を行い、状態把握に努め、本人様や家族様の気持ちを確認しながら退院に向けた状態の確認を行っている。コロナ禍でカンファレンスは難しいがリハビリの様子を確認に行ったり、専門職からも意見を頂くようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の過ごし方については徐々に変化が見られる時々今の状態やこれからの生活について家族様に報告し、担当者会議等でも意向を確認している。主治医についても協力体制など段階的に話し合いの場を設定している。	事業所として看取り介護も行う方針のもと、ご利用者の状態に応じて話し合いの場を持ち、ご利用者・ご家族の意向を確認し、ホームでできることを伝え、主治医や看護師とも連携し支援しています。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年間計画に沿って避難訓練年2回(日中、夜間想定)、水防訓練、連絡網伝達訓練年2回行い、災害時に備え、訓練を実施している。救命講習会も昨年度はコロナ禍で出来なかったが今年度は開催も検討している。	事業所にて心肺蘇生やAEDの使用研修を行っており、職員が急変時に適切な初期対応ができるようにしています。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年、職員は避難訓練、水防訓練を行い災害に備え、いざという時に行動できるよう訓練を行っている。地域の消防組織との連携も図っており、協力体制を築いている。	併設の事業所と合同で日中や夜間の火災や水害を想定した避難訓練を行なっています。また、緊急駆けつけ訓練も行う等、災害時に適切な対応がとれるように徹底されています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄介助や更衣等の声掛けは他利用者の視線がある為、耳元で小声で確認したり、筆談を用いて気をつけている。一人ひとりを尊重し、否定せず傾聴し、声掛けを行っている。	言葉かけ等が馴れ合いにならないよう、ご本人の人格を重視したケアが行えるように接遇研修の場等で徹底されています。また、契約時に広報等への写真の掲載についてもご家族に確認を得ています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	答えを急がせず、選択肢を与えるような声掛けを行っている。病気の為、困難な方には選択肢を絞り、自己決定できるような環境作りをしている。入浴時の服や飲み物、過ごし方など伺い、対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人様のどうしたいか希望を確認している。入居者様が主役であることを理解し、安心して生活できるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問理容を行ったり、毎朝の整容は声掛けを行い支援している。服装の乱れなども常時、整えている。衣類については必要に応じて家族様から購入して頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立作成時にはご利用者様に何が食べたいか聞き、食事が楽しみになる様に努めている。季節の食材を使うよう心掛け、誕生日などメニューを工夫している。食材の皮むきや調理、食器拭きなどできる事を手伝って頂いている。	ご利用者にもできる範囲で食事の準備や、後片付けも行ってもらっています。また、季節の献立や誕生日メニューを取り入れたり、事業所の畑で野菜を収穫したり、干し柿や笹寿司作りもしており、ご利用者の楽しみとなっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態に合わせた食事量、形態で食事を提供し、食事量のチェックをしている。水分摂取については摂取量が少ない方にはお茶ゼリーの提供や声掛け、飲み物を変え提供を行っている。水分量も把握し、申し送っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けを行い、ご利用者様に合わせ見守りや介助を行い、義歯管理に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックし、定時誘導だけでなくその方に合わせた時間に誘導を行っている。排泄時は必要に応じて見守り、声掛けを行い、トイレでの排泄ができるよう支援している。	ご利用者全員に排泄チェックを行ない、一人ひとりに合わせた適切な誘導、支援をしています。職員のさり気ない見守りや声かけで気持ちよくできています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を活用し、排便パターンを把握している。看護師にも相談し、寝起きに冷水の提供や食事にきのこや海藻を取り入れたり工夫している。主治医へも報告し、薬の服用にて対応もしている。歩行運動や体操なども行い、便秘予防に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1人ひとりの状態、好みに合わせた入浴を行っている。入浴も自己決定できるような声掛けを行っている。	ご利用者の希望に添った時間帯に合わせて入浴支援しています。また、季節に合わせて菖蒲湯を提供したり、入浴を嫌がる方にも職員がタイミングを考慮して、うまく誘導し入浴して頂いています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	身体を使ったレクを行ったり、日中の活動を促し、夜間よく眠れるように対応している。眠れない方に対しては話を傾聴し、安心して頂ける様努めている。日中の休息についてはいつでも自由に居室で過ごせるようにしており、本人様の意向に合わせている。		
47		○服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬状況を把握し、状態をよく観察し、必要時は多職種と連携している。薬の変更時には変化の観察や副作用、用法、用量の理解をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人ひとりの生活歴や経験を把握し、その方ができる役割を見つけ、生きがいになる様支援している。ホームの中で行事やレクリエーションを実施し、楽しんで頂ける様支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍により外出の機会が減っていたが落ち着いてきてからは制限はあるが年間行事計画に沿って季節ごとにドライブに出かけたり、散歩や外気浴を実施できた。	今年度は新型コロナウイルスの影響で自粛していますが、ご利用者と一緒に季節に合わせてお花見やあじさい見学、紅葉見学などの外出も実施しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホーム内での使用の機会はないが本人、家族様の希望に応じ、金銭を所持され、安心されていた。コロナが落ち着いたらご家族様や職員と買い物等の外出支援を計画できるとよい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を出したいという希望はなかったがご本人様からの希望があれば行っていく。遠方にいる家族様からの手紙は時々あり、本人様にお渡しし、喜ばれている。電話については希望に沿って繋いでいる。しばらく、面会されていない家族様から電話があった際はお繋ぎできる事をお伝えしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じて頂けるように花を飾ったり、一緒に作った作品を工夫して飾っている。廊下に行事の写真を掲示し、いつでも見れるようにしている。換気をしたり、湿度を記録し、快適な空間が保てるよう努めている。	天井が吹き抜けのためとても広く感じられ、また窓からの採光が工夫されており明るく感じられます。リビングにはご利用者が作ったカレンダーや作品、行事の際の写真が飾られ、家庭的な雰囲気が作られています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでは気の合う方と同じテーブルに座って頂き、ゆったりと過ごして頂いている。歩行器の方も増えて来ており、トラブルもあり、テーブルや椅子の位置などその都度工夫している。玄関前にソファがおいてあり、気分転換に座って外を眺める方もおられる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には自宅と同じように過ごせるよう、使い慣れた物や必要な物を用意して頂くようお願いしている。家族様の写真を飾ったり、居心地よく過ごして頂ける様にしている。また、ご利用者様の身体に合わせ設えも変更している。	ご利用者には使い慣れた家具や時計などをお持ち込み頂き、居室にホームでの写真やご家族の写真、カレンダーを飾るなどして、その人らしい部屋作りの工夫をしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立支援に向けて各居室に表札を設け、ご自分の居室がわかるよう工夫している。トイレの場所もわかるよう明記し、電気のスイッチも工夫を行いわかりやすくしている。		

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				